

四本堂家礼  
上

沖縄県教育委員会

本文の 88、90、92、120、122、124、126 の各ページは縦しろ方向に向いているが、原本では小口方向に向いて行列が一行に並んだ形になっている。

四本堂家礼  
上

沖縄県教育委員会

## 『四本堂家礼』について

『四本堂家礼』は、『蔡家家憲』とも称している。奥書に「右之通家規相定置申候間子々孫々迄無相違永代可相守者也」乾隆元年正月吉日 前祝嶺親方」とあるところから、編集年代は乾隆元年（一七三六）で、筆者は前祝嶺親方ということになる。筆者の前祝賀親方とは、久米村系の蔡氏具志家の十一世文溥のことである。彼は康熙十年（一六七一）に生まれ、乾隆十年（一七四五）に没している。享年七五才である。前祝嶺親方といわれるのは、具志川間切祝嶺地頭職に補任された際の祝嶺のことで、「前」は退職したことを意味する。『四本堂家礼』が乾隆元年に編集されたということになれば、時に蔡文溥六十五才である。

「四本堂」とは筆者の蔡文溥の堂号もしくは蔡氏具志家の堂号のいずれかである。沖繩の旧家等には「○○堂」という堂号が散見する。八重山島石垣家の「五惇堂」、同仲本家の「積善堂」、伊是名島銘荊家の「善淵堂」がある（以上は扁額で確認）。そのほかに書跡・絵画の冠帽印に使用されたものとして、鄭嘉訓の「経徳堂」、鄭元偉の「通徳堂」、向天迪の「雲淵堂」などが確認され、家譜にも記される場合があり、蔡氏具志家譜には「四本堂」、鄭氏宮城家譜には「振徳堂」とある。ここで明らかなのは、尚家系統が「淵」字、鄭氏が「徳」字を含むらしいということである。

内容は、まず序文に編集趣旨を記した上で、全編を通礼・冠礼・婚礼・葬礼・雑録に分類し、さらにいくつかの項目を設けてあり、本文は条書体にまとめ、目録及び本文の項目には通し番号が朱書してある。また、朱書による訂正や本文の上部に難解の字を抜き出して読みと語意を付した箇所も散見する。表紙は「四本堂 良正」と外題してあるが、これは当初からのものではなく後補であろう。その序文に、具志家で従



来から行なわれてきた礼式のうちで、無益なものはやめ、行事として行う必要のあるものは新たに補ない、これを規模帳として整え、子々孫々に至るまで守っていくべきである、と記しているように、具志家伝来の冠婚葬祭の規式を家憲（家礼）としてまとめたものである。同書は『四本堂規模帳』とも称されるが、それは「比節規模之帳相調置候」の一節に由来すると思われる。『四本堂家礼』は久米島や八重山島の旧家に伝存されていることが確認されており、蔡氏一門の家憲としてだけでなく、広く御殿・殿内等の名家における礼式の規範となったのではないかと思われる。

蔡文溥が家規を編集するにあたって、底本として『文公家礼』（『朱子家礼』）を参考にしたようであるが、単なる借用に終始することなく、文章そのものは沖繩の表現形式を採用しており、中国の影響を受けたとはいえ定着した儀礼・行事・習俗等の規式をまとめあげたという点では、乾隆元年前後の沖繩の民俗社会の歴史を知る上では貴重な資料であるといわれるゆえんである。

今回、影印本を作成するにあたっては、表題をもっとも一般的と思われる「四本堂家礼」とした。大方の研究の一助ともなれば幸甚である。

なお、本影印本の底本である県立博物館所蔵本は元来一冊綴になっているが、事情があつて二冊に分冊せざるを得なかつたので、暫定的に上下に分けて刊行することにした。

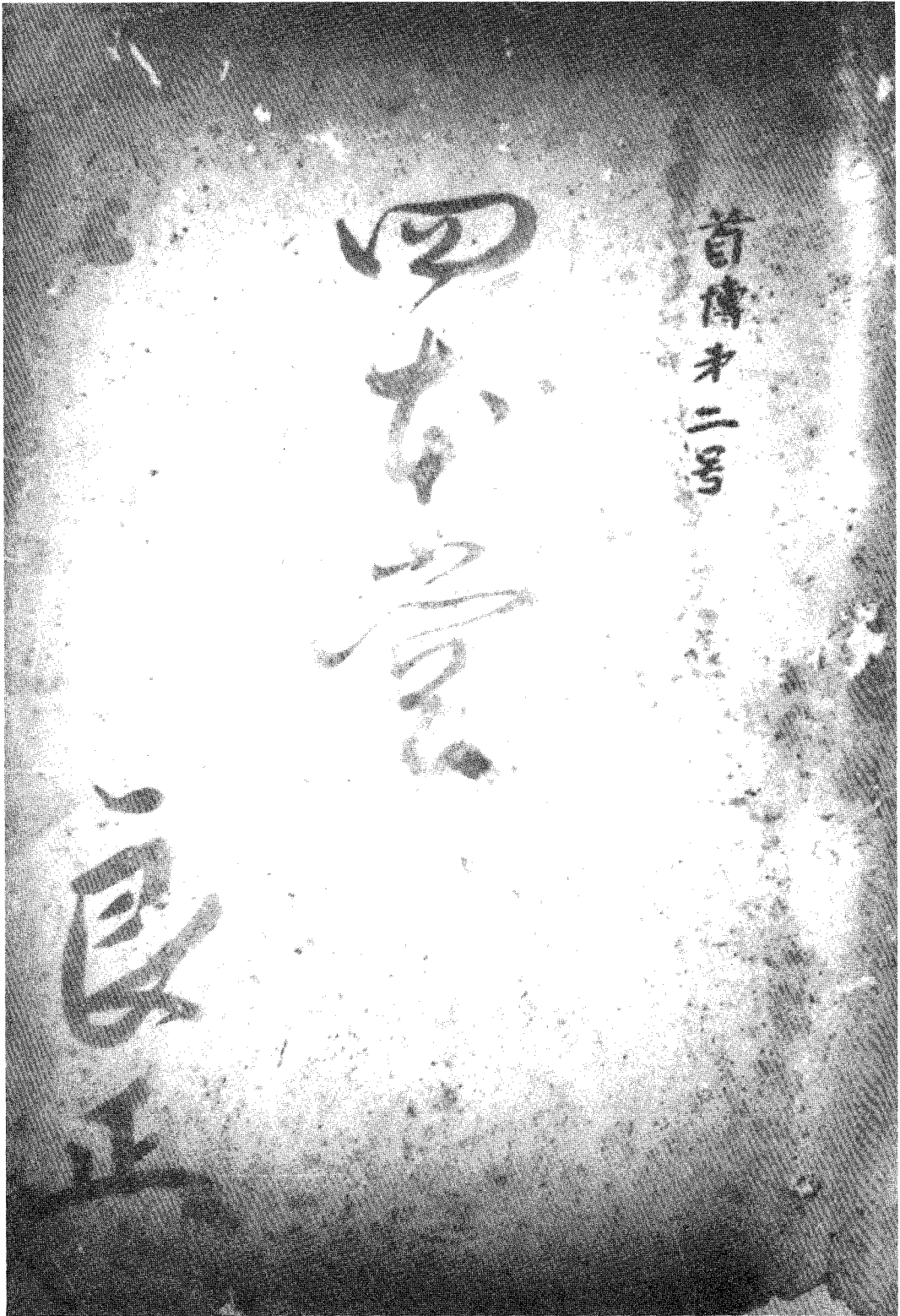
昭和五十六年三月

法 量 従二七・四 cm 横二〇・〇 cm

紙 数 本文一四二紙

所有者 沖繩県（沖繩県立博物館保管）

題 字 坡名城 泰 雄







母親先<sub>レ</sub>死<sub>レ</sub>時<sub>レ</sub>沐<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>擯<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>安<sub>レ</sub>重<sub>レ</sub>事

亡<sub>レ</sub>後<sub>レ</sub>胤<sub>レ</sub>修<sub>レ</sub>就<sub>レ</sub>位<sub>レ</sub>解<sub>レ</sub>書<sub>レ</sub>伏<sub>レ</sub>事

擯<sub>レ</sub>大<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>事

祖<sub>レ</sub>母<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>理<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>事

照<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>也<sub>レ</sub>教<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>小<sub>レ</sub>者<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>矣<sub>レ</sub>事

以<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>事

年<sub>レ</sub>中<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>事

子<sub>レ</sub>孫<sub>レ</sub>流<sub>レ</sub>事

父<sub>レ</sub>和<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>事

年<sub>レ</sub>友<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>事

禮記の儀礼に於て、幼霊前には幼り事

を、男子に、童子靈前には幼り事

を、童子に、童子靈前には幼り事

童子に、童子に、童子に

童子に、童子に、童子に

童子に、童子に、童子に

童子に、童子に、童子に

冠禮

婚禮

男子冠禮に、男子冠禮に、男子冠禮に

一 女子出嫁

一 葬禮

一 兼祝

一 祝りも平ふたりたる叙父母水宮討むれり

一 洗骨

一 新墓仕立

一 遷葬

一 葬禮

一 葬禮

一 符一

忘日之事

祿之事

年之事

女子之出守進之為於人素也

之妻之妻之子之素也

男子之出守進之為於人素也

為於人素也

之素也

雜錄

有里之冲論



先 平 王 平 事 事 事 事 事 事 事 事

祖父を母親に於て事す

教人師に事す

存心に事す

為宗族に事す

子弟教訓に事す

妻女交刺に事す

女子交刺に事す

婦人として去るに事す

婦人として居るに事す

史婦に事す

一 恩以處之令使助事

一 嫡子以爲之

一 父也之嫡子共口合之

一 外祖也之嫡高氏書洞親之卷之

一 母親也之嫡父書洞親之

一 郷黨和陰之

一 正道之公書之

一 父之親友更之

一 兄弟村戚分之

一 子回之

五九

丁巳年春

朱文公

目馬温公

帳子

人為

日月

微依

奴婢

妻子

不存

家不臣妾之也  
 不結之或與之也  
 友生之時亦非以口說之也  
 張淡之也  
 漆大之也  
 名子禁山之也  
 人々之禁山之也  
 中藏大史官所之也  
 照屋親之之廣之清之何意昌之也  
 子若若之親沒之也

七九

一 春心細く巡見て仕去

一 白澤の湯書日の中

一 仕明の事

一 唯歌の湯於日反中

一 清春寺の寺號本願忠善堂の事

一 娘共市に修心の中

一 病人見家娘日の中

通禮

一 春心解仕去の事

一 我亦欲汝如之先祖之子孫、信解、男、女、各、各、破、扉



先代に成りたる又之祖より之の功に成りたる  
先祖考某官某公某親雲上某號府君神主  
先祖妣某安屋某法名某氏孺人神主

孝來孫某諱奉祀

右代に成りたる又之祖より之の功に成りたる  
右位御書並一 願沐柄は安室代用  
下系公某年忘之時に於て大沐柄は系公二十二年  
右代に成りたる又之祖より之の功に成りたる

但功祖より之の祖より之の功に成りたる又之祖より之の功に成りたる

先代に成りたる

二代世の耐位牌書候事

一 父段承云々祖六代に成候より父之志に奉仕候事

右日見合云々祖考妣と申之て深候祖考妣祖考

櫛シ批ヒ考カウ妣ヒと申之於面中て書出候前一日に於津嶋

津菜月ノ一と津島にて仕候て日之暇と云々い葉書

新爰云々葉書に依り執筆熟く書出候事

つゝい先帝祖考妣に於て為高祖考妣祖考妣に於

て高祖考妣祖考妣に於て高祖考妣に於て高祖考妣に於

て安重永明と云々一候事津島にて仕候事白雲前

乃川様と申之申之乃川様由仕津島に於て乃川様







陷一左某年某月某日某時生  
陷一右某年某月某日某時卒  
陷一下

石通志見今書洞公

墓

一神主書侯於石之友人新向必封滄書尸以宗  
行而國之封滄空之及其始一之私高者祖考  
亦之疏石書以後之疏石之根中且未宗自是始安  
好又感於石友人之存之封祿亦亦之疏石  
下書也者一有石半一疏石書尸以之自聚代  
下也者

高祖之神主三

曾祖之神主三

孝玄孫某奉祀

孝曾孫某奉祀

祖父之神主三

父之神主三

孝孫某奉祀

孝子某奉祀

石之也恭と見合神主三奉祀書記以

一 宗令大史之妻之冰之史人之書山織大史之妻

一 神主之史人之妻之史人之書山織大史之妻

一 神主之史人之妻之史人之書山織大史之妻

一 神主之史人之妻之史人之書山織大史之妻

何故書て下りぬ

一 父母存命之月嫡子之音終於公嫡孫而終仕  
六代。或成以之為祖神也。中。下。上。深。中。

一 嫡子病名為公。隱居為孫。祖文。家。智。法。以。字。好。子。在  
代。好。美。子。曾。祖。考。之。神。之。仿。書。之。好。子。之。在  
下。書。記。以。

四 位。傳。之。系。之。中。

### 伊川神主式說

## 神

周尺 比天 鈔寸 言分 弱

作主用粟。取法於時日月辰。跌方四寸。象歲之  
四時。高八寸。有二寸象十二月。身博三十分。象月之  
日厚十二分。象日之辰。身跌皆厚一寸二分刻上五分為圓首。

寸之下動前為領而判之一居前二居後前四分後八分

陷中以書爵姓名

曰宋改某官某公諱某字某第幾神主陷中長六寸闊二寸

主

合之植於跌

身去跌上一尺二寸并跌高二尺八寸

竅其旁以通中如兵

厚三之一

謂圍徑

居二分之一

謂在七寸三分之上

粉塗其前以

書屬稱

屬謂高曾祖考稱謂官或號行號如處士秀才行如幾印義公

旁題主祀之名

曰孝子某奉祀

加贈易世則筆滌而更之水以洒外改中

不改

尺

按家禮神主制度本任川說而尺式後人以潘

時舉所得司馬家二尺式圖於卷首其二司

布帛尺一即周尺也近時書肆列所註等書以

# 式

板木短狹之故而所畫之尺亦隨之而短雖其旁書曰  
當今三司布帛尺七寸五分弱今世之人豈識三司  
尺為何等尺哉惟鄭霖所刻家禮今本在南監者橫  
畫尺式最為得體但亦無所則今以武林應氏圖  
及以貨泉錢較定周尺而準以今之鈔尺使依主者  
有所據依云朱子曰得一書為據足矣故凡南軒家  
所刻及建本吳門官本宜學禮器圖本一切削去惟  
據周尺為則云

神主全式

顯考某官府君神主

孝子某奉祀

作主制度

身 高二尺二寸 闊三寸 厚二寸二分 首

削去其上兩角各去五分 得其首作圓形 額從

上量下一寸 橫動其前入身深四分 為額判 闊其下

陷中於額下 本身上半深四分 闊一寸 長六寸 為陷

中 穴較於本身兩側 旁額兩圓孔 徑四分 以通陷中

其孔離跌面七寸二分 前面廣三寸 安在額下

跌 方四寸 厚一寸二分 鑿之道

底以受主身



神

主

分

顯考某官府君神主

孝子某奉祀

竅

宋故某官某公諱某字某神主

竅

合式

前合於後  
身納於跌

植立仍高一尺二寸○按既有伊川之說而又申之者文之以淺易之言使人易曉也按宋朝諱玄凡經典中玄字皆改為元故凡家禮稱元孫今悉改從玄字

祀外祖父母併岳父母木主式

故外祖祖父某官

某姓公神主

外孫姓名奉祀

跌式

主 木 舅 母

先 母 舅 字 號 姓 公 神 主

甥 姓 名 諱 奉 祀

故 岳 母 父 字 號 姓 公  
姓 門 姓 氏

神 主

婿 姓 名 諱 奉 祀

主木母姨

先姨母姓門姓氏神主

外姪姓名諱奉祀

主木甥外

故甥姓字號處士神主

傍不書母舅某人奉祀所以別尊卑也字姓木主亦如前也

妻木主

先室姓氏神主

夫姓名諱奉祀

祀本姓叔伯兄弟木主式

先伯字號  
叔字號  
公神主

不書姓  
姪名諱奉祀

先兄字號處士神主

弟不書姓  
奉祀

石老神主後山墓と見合て書洞の

五之妻神主書候之事

簡中

清故蔡門

元配

某氏諱某字某神主

某墓

簡中左

某年某月某日某時生

簡中右

某年某月某日某時死

粉面元配 蔡門某安屋某法名某氏婦人神主

先妻之元配元配 中後妻之繼配中

右神主之代形而居於中者也書也

母親之遺形也此之小槓也安也

一又中之母也此之其神也之小槓也安也

此之其神也此之其神也此之其神也

此之其神也此之其神也此之其神也

此之其神也此之其神也此之其神也

先曾祖伯父 孝曾孫某

先祖伯父 孝曾孫某

先伯父

先兄

亡弟

亡男

曾祖伯叔父之妻也

先曾祖母

祖伯叔父之妻也

先祖母

伯叔父之妻也

先伯母

兄之妻

先嫂

弟之妻

先婦

曾祖伯叔父之妻也

先曾祖母姑

愚姪某

愚弟某

傍書無用

傍書無用

支祖姓孫某

支祖姓孫某

支姪某

支弟某

傍書無用

曾姪孫某



祖伯叔母也

伯叔母也

先祖姑

先姑

先姊

亡妹

亡女

祖姪孫某

姪某

愚弟某

傍書無用

傍書無用

書中亦有與之稱曰之子之之也書

我子稱方之亡之子也書之因後日我矣之

傍書者之我子也之傍書云之也如也

也也如也

石傍視之亦之論中云有在書後心括或云

前記の如く世に又下て書調の

一横に月をて祖文を良教方法史婦法史文也  
於ある重の月福人等二の調に今を人とも一の多照屋  
也良教を小名を人か照志を良教者方法史文を神を  
安重の如く此の月を福住の所を小名を人か照志照屋  
也良教を史婦の時女子を人生子近も照屋を良教を  
史文を良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を  
良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を  
又此の良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を  
良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を  
良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を良教を

一 祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

祖父母の禮古書に「莫之」云云は由來

此處多親之小名之人  
位牌記す事

一 此處多親之具志近奈の其神より其南系  
妻之姓は小名之人の妻之由妻の姓は友人の孫  
下藏近奈の神より其夫の姓は妻の姓は  
小名之人の姓は沙流文清史婦又人の位牌は  
父の妻親之沙流文清史婦又人の位牌は  
祖父の妻親之沙流文清史婦又人の位牌は  
位牌は沙流文清史婦又人の位牌は  
遠のるは源の姓は流の姓は流の姓は小名子



海をまぐるに候

一 同日亥后、子孫も酒持来り先祖に候。此日、  
父母に候。形略津直で仕候

一 同日卯之田子、三三如りの汁水調光と赤飯二汁  
二葉の杉丸と津霊前給へ候。供津焼魚  
津直で仕候

一 同日大祓、善流人初祓に候。此日、此後と為出候。此  
津直で仕候

他人初祓より、此の如く候。此日、此後と為出候。此

潮水と云ふ候



七仕作

一 大神善哉人初祓、清布元日也

一 同日善哉大神下天也祝成、廣十二月廿四日

上天也祝成

一 同七日為高供於掃除地時清系清酒上着粟之糝

砂人根之、白汁靈前塔、佈沙塔、此法也

善哉大神人初祓、清布元日也

一 為平淡化教祖文也作教父母之傳、兼外祖父母也

方之、酒代持来、白也、此法也、作教祖文也、作教父之妻

也、方之、作教祖文也、作教父也、方之、白也、此法也、作教父



一 本年為辛卯頭亥居之子女孫嬉久未下戸  
 之時之秋之歲日之日居之一日之未以物式正當重  
 下戸女子孫も在也て仕ふ其時之怪に形現地氣經  
 一 例年辛卯首之燒只仕ふ其時中忘と之  
 之八世所出燒只て仕ふ

一 同十八日未の時於涼沖靈前口中允地の時來  
 沖酒上同居之子女孫居之於其時沖燒只沙在仕  
 以と申し 穢て仕ふ心日之小豆粥一汁一桑猪粥も  
 以とて下戸以善廣大和神と申す之日因り  
 一 同十六日沖靈前日白粥とて下戸

一 四月十六日為辛次子孫男女忌當之墓所也  
清酒之法燒只清酒也

一 同大日田等祭祠の清酒也若く之祭大和  
神清酒也

一 四月朔日之清酒也  
清酒之法燒只清酒也  
清酒之法燒只清酒也

此十日之清酒也  
附錄

一 清酒之法燒只清酒也

此書の巻靈儀の糸神棚の爲に記し置  
しりる令禁し

此の儀の儀字の好く子と書りゆ久し  
許許の字とあり

一 神棚の糸の懸置の儀の爲に記し置  
禁の儀の儀字の好く子と書りゆ久し  
是の儀

一 靈前と地中との儀の爲に記し置  
此の儀の儀字の好く子と書りゆ久し  
此の儀の儀字の好く子と書りゆ久し

一 一月朔を依りて日大祓禊を斎大祓禊の  
中俵供上津城と津海にて行

也

一 依りて津城供上津海にて行  
下り申す

一 大祓禊の焼めと下り申す

一 大祓禊の焼めと下り申す

一 一月朔を依りて日大祓禊を斎大祓禊の  
中俵供上津城と津海にて行

一 二月彼岸の時靈前於地焼めと七日より毎日行

く五日津菜湯津城と津海にて行

他子儀記とて仕奉る

一 二月麦の穂祭の時右の穂と水前酒靈前大祓  
善齋大和祓に下り事

一 二月二日信長より白靈前大祓中より於此  
所靈前に申死地の時津糸津酒と支焼付り  
因后より孫津流と津流に仕奉

一 清和の日前より日南系奏物理古書取可系  
津流と津流に仕奉申除て仕奉正日より孫男  
為成之奏の時右より此津糸津流に後之祖と  
津流と津流に仕奉申西平成中より此津流



且又後日刊之卷亦非飛骨後少方者と云ふも  
石室物と月と云ふ巻も皆く出度て仕らん  
巻くといふ南条巻の別而日合らん石室物  
成成し人神と出度入り交り他巻くといふ  
其子孫中出度ると云ふと秋長心と成巻く一  
且又二才の和松り由と水次孫と味言出と仕  
参り亦巻飾りふん記

り故めはら

附と地巻津系記巻く石仕の成と地とる巻石

一 津島寺法

一 津酒久親と巻

一 〇〇唐紙の紙?

一 萩二膳? 他を膳に十口?

一 〇〇唐紙の紙? 他を膳にあり合  
の時、あの子十口?

一 〇〇貝とく糸?

一 〇〇唐紙の紙?

一 〇〇唐紙の紙?

一 餅二膳? 他を膳にあり合

一 〇〇唐紙の紙?

一 〇〇唐紙の紙? 他を膳にあり合  
の時、あの子十口?

一 〇〇唐紙の紙?

一 〇〇唐紙の紙?

一 〇〇唐紙の紙?

御乘

魚

其襖

桔子

御茶

鶏

餅

燈



盃

塩

庖丁

爐

御茶

猪肉

餅

燵

打紙

貝

木俵

桔子

附録

清明祭案、浅草日三ヶ所、高野、妙法、  
二月廿日、案、方、青、小、宜、儀、存、在、台



以白其日松坡生花津系花各名居用居之  
 子孫中言於讀恆二末之平戶以一月約至終年  
 之中死地始以系津酒清仙供之津酒之佳也  
 十六日之津酒云々

二味之系也居之記之

一 條二所 世一坪中二粒?

一 取肉一切

一 鹿角一 鹿角小枝

一 鹿角一 鹿角

一 鹿一 鹿

一 萩二 萩一 萩三 萩四?

一 負吉

一 津酒一 鹿

一 白貝一 所

一 津系一 所





一 正月朔、祖系を以て祖として、清霊前、大祓  
養、廣人、和沐、清分りて、平

一 二月廿三日、俗言、あまのつね、地生、花、地、明  
清、兼、清、酒、酌、可、之、新、理、上、酒、路、之、旅、右、何、白  
清、靈、前、り、と、用、右、子、孫、清、媛、之、以、自、社、公

此、火、神、善、廣、人、和、沐、之、每、月、一、祭、也、也

附錄

乃、子、孫、之、心、也、乃、目、之、新、理、上、酒、路、之、旅、右、何、白  
之、祖、也、之、清、分、依、連、と、之、以、廣、人、情、也、也、也  
後、之、あ、く、盛、礼、も、作、成、く、祭、者、之、以、年、孫、右

換成所乞の修葺に就留て奉り

一 七月七日を因大日連行靈前於松尾地時上野を  
為り及事沙兼湯仕事場迄仕事山頂迄と  
仕事奉り

一 同十二日遊之巻下江系事場迄仕事持て仕事  
事兼用ト之松原で仕事

一 同十二日志蓋堂に就儀鬼木白木並出儀  
大石又儀留り方して奉り

他為知所二方持て二休一方持て三休出儀

大石又

一 七月十二日靈前考中つ外近於北地法勝内  
 右側東入公之位牌、中門及右殿右膳一膳、法勝内  
 地の上時分蔵のつ、右右殿と云、家と為家と  
 つ近於出汁の仕法考中つ靈前には米、米、湯上  
 法勝内同居し子孫の仕法は右の如く外胡、右邊  
 右側、法勝内法勝内仕法と云、婦始女子孫始末  
 靈前には右出一同、法勝内法勝内仕法  
 附法勝内、亦た記し

一 考折

考折  
 考折  
 考折  
 考折

一 乃之全  
 考折  
 考折  
 考折  
 考折



一 蘇武乳石 他志乳石三石  
十八日

一 阿蘭丸 他志阿蘭丸  
是日三石、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸

一 阿蘭丸 他志阿蘭丸  
是日三石、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸

石上沐柄沖津若服沐柄同本

一 阿蘭丸 他志阿蘭丸  
是日三石、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸

一 蘇合一石 他志蘇合一石  
是日三石、他志蘇合一石、他志蘇合一石、他志蘇合一石

一 蓮一葉一枚

一 西魚式粒 他志西魚式粒  
是日三石、他志西魚式粒、他志西魚式粒、他志西魚式粒

一 阿蘭丸 他志阿蘭丸  
是日三石、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸

一 蘇合一石 他志蘇合一石  
是日三石、他志蘇合一石、他志蘇合一石、他志蘇合一石

一 阿蘭丸 他志阿蘭丸  
是日三石、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸、他志阿蘭丸

一 巧くんく実出粒

右 卯之序

一 七月十七日あつた汁 東湯で仕込 豆茶金 糸 糸 糸

次方た記

物

汁 皿 和

小 皿 和

汁 汁 白大豆 牛乳 和

汁 粥 和



和光  
有誤

小四  
ふし  
か

月十六日

一  
物  
十  
日  
同  
以

他  
病  
子  
十  
日  
同  
以

解  
心  
白  
解  
心  
白

同  
以

冲血  
初玉子

小血  
粒汁一加  
牛一居

初血  
南侯子

同来

白麻

冲血

冲血  
初玉子

牛一居  
冬血  
初玉子

冲血  
初玉子

冲血  
初玉子

冲血  
初玉子

右之通水祠世人祀焉后之更之此亦感めり清茶  
汁酒之清醜其醜醜汁茶仕用后之孫一月四日  
て仕ひて者之亦祠用前之清茶汁酒の自婦  
子女孫嫁小清醜仕汁送て候也

附錄

実来之此亭よりて其人の孫が此地に出た後  
自らその教の中へ歸るべき事なき事遠年  
一乃先祀清醜のりして其孫が其方より清醜  
清醜の清醜を祀へり其方より清醜のりして其孫  
子女之清醜を祀へり其方より清醜のりして其孫

中 夫 以 爲 之 相 又 爲 來 之 事 也 乎 乎 乎 乎

一 七月十日 日 爲 之 難 矣 之 計 之 難 多 之 加 以 之 難 也  
娘 男 雲 鴨 之 用 也 也 水 之 用 也 也 命 之 用 也 也

一 同 十 六 日 好 之 也 之 難 也 也 也 也 也 也 也 也

一 八月十日 禁 爲 之 難 矣 之 計 之 難 多 之 加 以 之 難 也  
大 神 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善 善

山 之 口 乃 乃 乃 乃

一 八月十日 日 爲 之 難 矣 之 計 之 難 多 之 加 以 之 難 也  
上 之 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦  
亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦







一 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

大津市

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各

一 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各 女子の各



一 人祖神之社ありて天神堂に安んずる  
風俗は古くは神代と修甫新の如く入るに成  
り給ふ祖文高良親方より家中心に成り給ふ  
由縁代々と傳へて在りて存りても有るに  
存是又為酒好記

一 十一月冬に日あり物波松地津靈前には  
焼酎汁果汁酒上田等之を酒加津汁酒の如く  
津燒酒汁酒の如く之日同也

他古昔之儀大津一人祖神の如く毎月八日  
十一月八日鬼降祭に供ふる日ありて物波松地津靈前

生祀然明沙身沙酒之鬼候、新理酒の白紙  
紙、居之坊沙城、其同后、子孫、而後、仕、中

他候、色、及び、而、可、之、鬼、候、り、戸、心、く、口、控、さ、す、ん

善、悪、大、神、大、和、神、以、分、と、其、月、度、同、次

一 十二月、妹、水、の、度、同、大、旨、為、所、日、和、見、合、り、多、く、沙、  
身、約、大、原、理、く、大、方、と、多、く、早、と、重、く、沙、靈、不、可、以、後、其、  
仕、振、地、く、奉、月、下、之、致、沙、身、神、と、と、早、と、重、く、  
欲、相、振、地、神、之、印、く、振、重、と、重、中、お、振、地、水、  
田、等、く、沙、身、供、之、供、沙、城、其、四、日、下、仕、公、善、大、神、  
善、悪、大、和、神、自、可、沙、身、供、之、下、戸、中

一十二月廿四日善齋大禰と云く時汁は粥の汁酒を

砂糖園子と汁は粥と汁は粥と仕る

一<sup>汁酒</sup>地明と砂糖園子

一<sup>大和</sup>砂糖園子

右二汁は粥と仕る

一十二月廿四日ある日授は各大禰はと云く

白田飯とみまゆとみまゆと各六の各禰と仕る

汁は粥と仕る

一地明は粥と仕る

汁酒は粥と仕る

一 歳を来たるは、津靈前大神、普賢菩薩、和神  
氏神、六津宮、尾上、上賀礼、赤坂、新花籠  
物つよの枝と入麻ととて、雲根と云い、石の如く、  
津系、津浦、天目、石部、備前、津靈、分、湯と上  
津城、良、津海、は、仕、事、

他、大神、普賢、菩薩、大神、和神、と、四月、辰、と、お、記、り、せ、ら、  
十三、子、孫、夜、生、し、時、形、式、に、し、り、

一 家、と、云、用、石、し、子、孫、普、賢、仕、り、り、何、月、何、日、何、時、に  
何、り、何、子、夜、生、る、は、此、處、と、津、靈、分、湯、田、城、と、  
し、し、津、海、は、仕、事、

一 子誕生仕りり日く若急言梅か二日あり川ぬれ仕  
ぬくより川ぬれ仕り日く大く川ぬれ仕り血を淨り  
何れ乃延ゆる胎髪そりし時ぬれ仕り胎毛毛り  
但是若急言梅か胎毛を痛ゆる誤生り日く急言

川新く日く代り

一 赤子胎髪そりし時日見各歳言若急言西日  
あつたそりし時みよぬ汁酒師を別張水成り  
胎髪そりし時汁酒師を別張水成り  
おれ若急言子と抱水相くおれ若急言  
胎髪そりし時汁酒師を別張水成り





一 嫡子始孫胎髮之月 時極重之禮也 人謂之  
 冲靈分塔之儀 供之月 二月以下 以儀供進之月  
 但大祓善禱 大和祓之 每月度 儀也  
 赤子胎髮 智之儀 之 白布 平日 充養 下月  
 髮利之儀 之 志 下 事

事

時祿

事 一 之 爲 出 初 月 全 宮 禱 勉 夫 爲 祿 事  
 本 之 儀 向 在 事 事

一 家老く事 誕生はる 胎発利 滋養 養育  
酒を奉る 父母抱え 酒を奉る 酒を奉る 酒を奉る  
百本

一 父母毎の誕生日祝儀

一 父母生年く 誕生日 大原 理花 小波 清太郎  
場子 賀酒 上り 五孫 等 法 孫 上 法 是 書  
海 生 日 法 酒 中 石 貝 の 法 孫 上 法 是 書  
世 出 生 日 法 夜 成 法 白 成 法 法 孫 上 法 是 書  
中 生 年 法 誕生日 法 葉 法 酒 法 孫 上 法 是 書  
法 孫 上 法 誕生日 法 葉 法 酒 法 孫 上 法 是 書

有る事いふ事し渡生目もた也父母は實に  
法外にはる者父母を世にさるるに許さるる  
清茶清酒焼酎料理之功徳也信許許  
正法に世に母に許す法也亦た力もたぬ世に祝  
ふもたぬ

詩録

父母小渡生目もた也  
今一人の由り中にも然る所轉く官小渡生  
那色く世に母を正法也亦た力もたぬ  
父母の事も急可く渡生目もた也

是忠信之天堯之同也故志存之如履之  
友之德甚公之公也又謂之父母之友  
曰揖之礼之礼之友是又今人之免之也  
德之知是之體鏡之府柴之友謂之生之聖  
誠治之自湯漸及至中友之辨漸當需體  
首之礼武者之德之德之德之德之德之德  
中之父母人之德謂之公祖者之父母之  
自礼之公存後就謀之公之父母之父母之  
存之之祖者之德之德之德之德之德之德  
之中之父母之德之德之德之德之德之德



為來之原、見之仕人、依津位之兼村、其持者、  
時之為有之、於此、氣川出、而、  
依中、來、の、砂、下、海、面、三、ノ、川、出、而、  
存、ら、津、重、布、は、於、津、境、  
候、之、津、原、之、法、也、

一 津、原、之、日、之、津、重、布、は、於、津、境、  
候、之、三、盛、洞、也、也、 城、津、海、  
と、來、之、下、重、之、孔子、廟、  
思、及、長、吏、之、方、於、津、  
津、兼、津、酒、之、津、境、  
候、之、津、原、之、法、也、







心子に汁は供仕酒に乃と申

一 片季に菓子汁靈前にはと申

一 片に菓子汁合はりて為功ゆゑに美酒汁靈前

と成汁焼と汁はと申

一 家番信太青菊二羽靈徳おは之と申

一 遊化中時所之に日為夜酒一多由之と申

下り申

一 板之付之丸人の解と申

一 板之付之由致る来式色石左燈一色玉中ソ

標之示之居居之と云ひに京御靈臺駕之御事と申

未及に書し標し其申前押花火の毛塩炭  
唐子武平押し右之条より

一 卯初令時右月ありて申し他家六押申す

一 酉青中時下先為らぬる辰辰酒とて

一 亥分青中時分屋中し祝し又酒と豊言より

一 尾青と暮夜寝ありて祝し又酒と豊言より

一 赤飯之秘出しと其申より其時家

一 卯青より其屋下し其申より其時家

一 卯青より其申より其時家

一 青より其申より其時家



し事

一 足骨始之祝、酒出、屋中祝、又酒とて、臺座  
中、時、花、大、水、家、く、く、の、石、を、始、ら、酒、を、く、む  
細、く、池、を、方、約、く、會、を、主、酒、者、兼、此、之、  
又、會、時、流、を、酒、振、出、て、祝、事、

一 他、柱、之、棟、上、く、死、大、水、始、ら、石、之、く、方、を、始、ら、  
新、祝、之、石、當、清、通、く、く、明、始、ら、時、を、前、目、撰、見、各  
所、之、く、時、酒、一、到、所、石、上、前、く、成、契、時、奉、回、り  
子、連、目、撰、見、各、子、孫、繁、昌、之、儀、又、お、新、子、孫、又、人  
列、入、初、て、致、ら、其、時、之、座、に、死、大、水、始、ら、石、上、の、重、入、初、と、く



花乃所名之香く地一色兵中白木二色在夢  
標と攪りし事一 但花名は美之口と下りし

一 骨中可酒一色所名の如くは是又青飲の  
二 花乃所名青細之香く石酒而香くは以て  
祝下りし事一 但花名は細之口と下りし

一 穴種之種名は時一 花名は用攪りし事一  
新視之石と云徳雨後之口時と名目是合云地之  
之末佳は白の如く下りし事一

酒之末くは白の如く

一 酒之合名と云 一 花名 但花名は美之口と下りし

一 新二勝 紐二勝三

一 既二勝

一 与二肉二所

一 汗香去之

紐 須月三三三

一 与二唐紙二夜 切らるる唐紙

一 靈隠水修り以時日換見合三各禱一各勝去の

被祈之由禱之時白米二色地一色より候也

心之し時用方三各禱一各勝去の

一 子育部之し中

一 子育部之候候候日見合各重其日津重

被沙城其津葉月一各

附右之し列卷記



此字

一視

美書

一視

一視

一視

此字

一視

美書

魏野

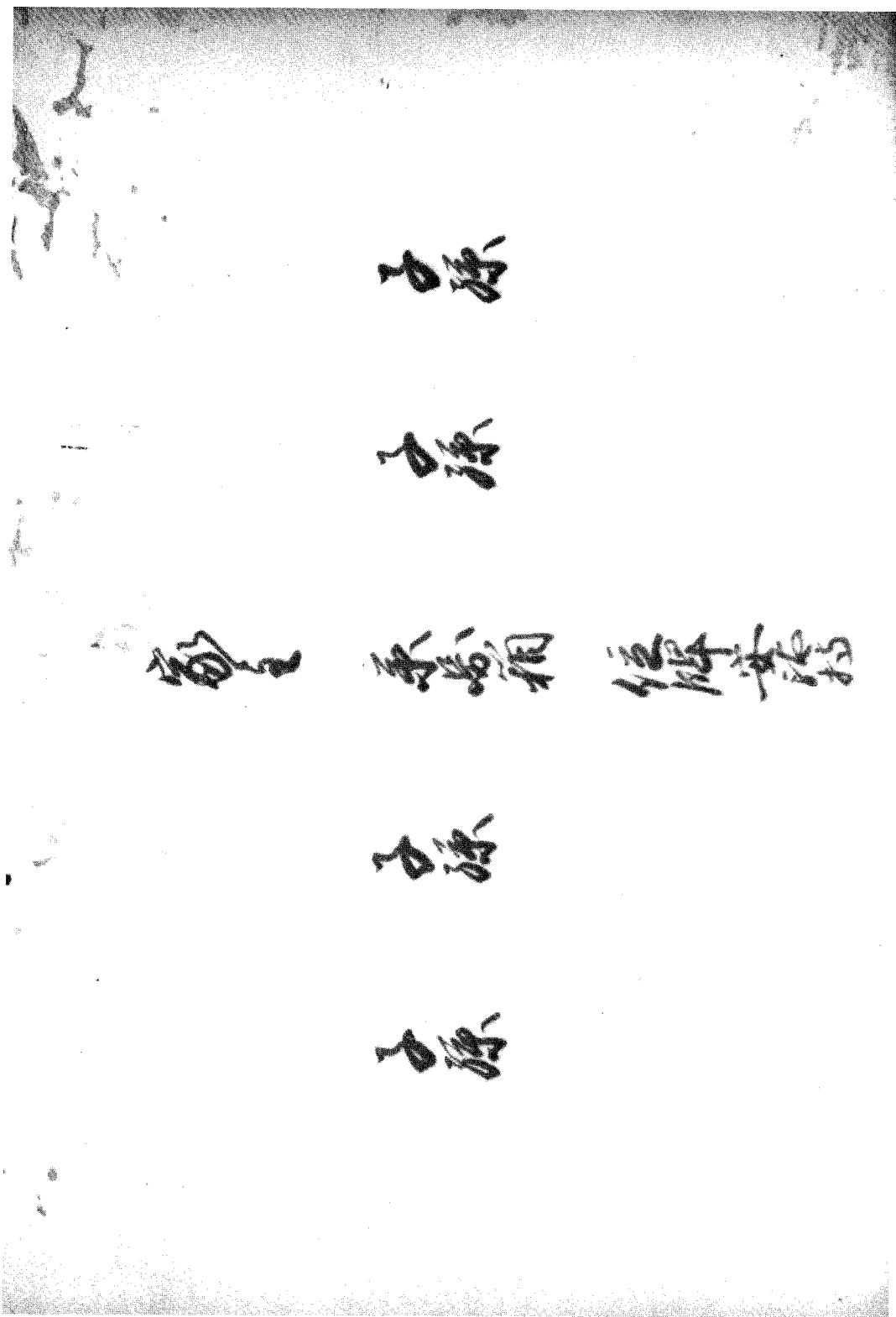
梁尔敏

大新

電報雜誌

魏野

梁尔敏



孫

孫

會

孫

孫

孫

孫

女姓親家

女姓親家

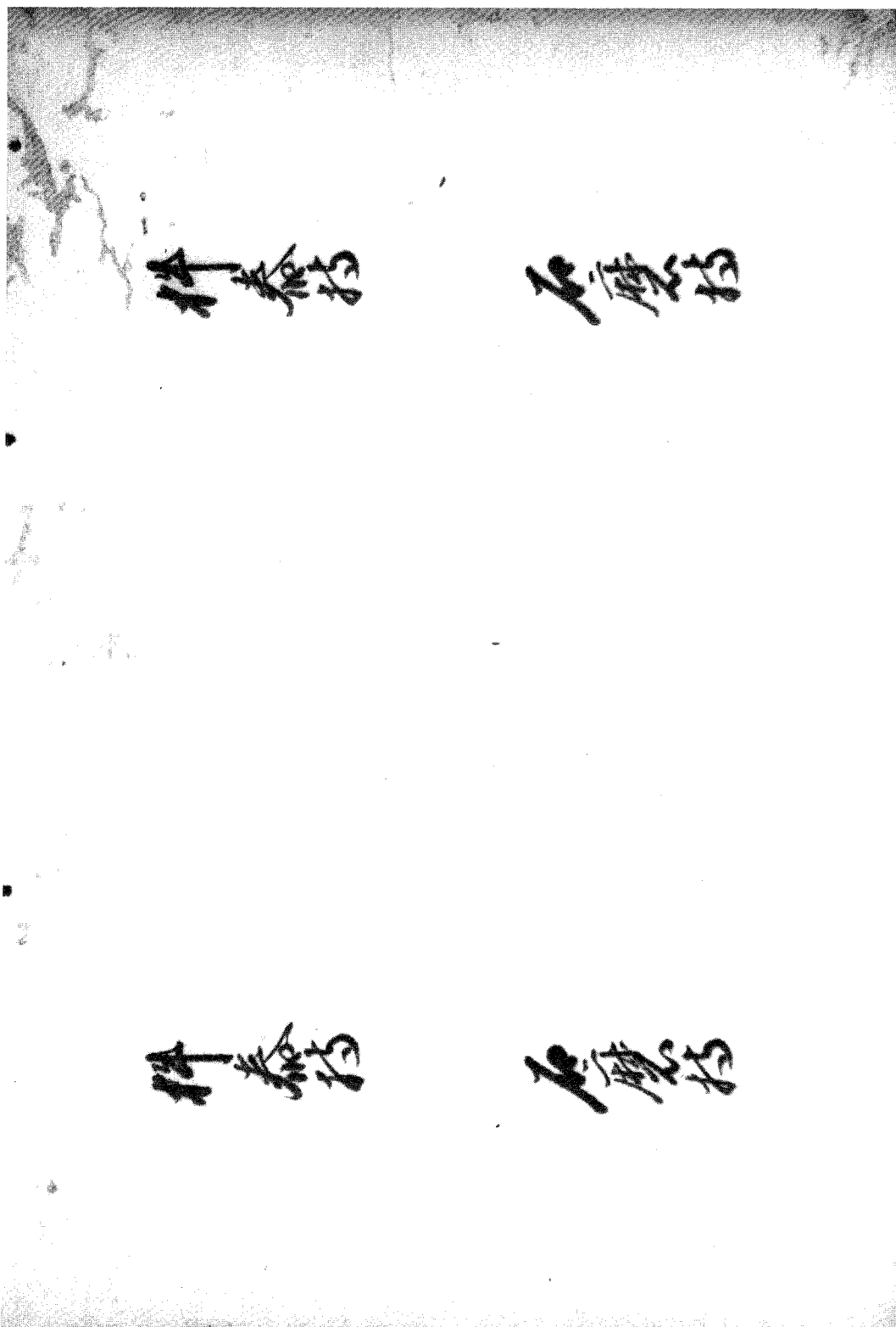
女姓親家

女姓親家

女姓親家

亦一德也

亦一德也



一 後新宅に花籠版酒屋を置る親類の用  
一人を重後人教示し酒造に任ずる仕事

臨之の事

一 家老兼子孫の御用を司るに宜しき人  
許重前日津城公に在り候中と津島仕事

一 二月に成候に在り候日見合之社大津善齋堂  
に仕事

一 家老の日前忠養堂に於て津城公見合日家老  
の御用と津島仕事と不務公御用と兼て仕事  
に仕事

一 案私之日津靈前自致津城只今日案私也  
 中上津海任父母自致津城津自清妻子女也  
 一 津海任自自供之云津城只出之云  
 一 津海任自自津靈前自致津城只今日案私也  
 首靈津自津今日津海任自中上津海任  
 父母自致津海任自清妻子女也津海任  
 自自津海任自自津海任自自津海任自  
 一 忠善堂自自津海任自自津海任自  
 一 津海任自自津海任自自津海任自  
 津海任自自津海任自自津海任自

彈丸之半

一後

主君深然也歲下ありし津靈前は津城番  
より何れ成程在るは佳候しと津海で仕  
津兼津酒津津系子教るありしと初津靈  
備あり自合にたし成中しと向りしと

彌子之半

一敬智佳の彌子之嗣子云此目之少御之胎穉氣  
不中一候と重指ありて之は名重指が云くも貴  
てあり之は石成と及津所と云はる津津津津津



兄之孫曰仕之孫曰敬平之孫曰新之孫曰胤  
 中以前各重親之孫曰神之孫曰次之孫曰是之  
 書名下之之府君神之之書傍書來之書二代  
 之成之孫曰兄之孫曰父之書名下之右同傍之孫來之書  
 二代之之兄之孫曰父之書名下之右同傍之孫來之書  
 心代之之兄之孫曰父之書名下之右同傍之孫來之書  
 之孫曰祖君之例心代述之孫曰之書之孫曰之  
 字之兄之嫂之書傍之文字來之書二代之之成之  
 先之孫曰之書傍之文字之孫來之書二代之之先之孫曰  
 書傍之文字孫來之書心代之之兄之孫曰之書傍

史官姓孫某其書乞其積之少致安其思以送之其  
身亦目仕以使人清沫之其書之者之公其記之

他胎之石移之石之

一友人魏家廢之法凡文武之友貞子其字又胎移  
自多其書之其親者之魏家之廢之之子孫  
之書之其親者之魏家之廢之之子孫  
之書之其親者之魏家之廢之之子孫  
之書之其親者之魏家之廢之之子孫

他武友之子其父之魏家之廢之之子孫  
文友之子其父之魏家之廢之之子孫

平江府垂後之友成り云

頭家寶案之始末記

一  
同姓之子昭穆不順者、以是子之住、  
儼然之礼、以住、先不、久、或、以、叙、在、智、云、  
者、之、以、或、之、弟、為、子、者、有、之、信、不、理、而、其、上、系、瑞、  
皆、居、之、中、之、ら、ら、ら、ら、居、候、之、住、り、友、に、君、上、均、己、白、  
或、者、貴、或、者、低、孫、子、住、り、如、也、子、持、く、  
其、物、を、居、て、と、之、に、身、體、是、く、後、孫、體、依、叙、  
礼、又、之、住、り、如、也、叙、子、之、右、人、の、嫂、が、制、家、後、  
今、之、人、の、住、り、如、也、之、一、之、一、昭、穆、之、礼、の、始、末、

一 女をこゝろにばりては

一 婦子及び孫に日月の嗣をばりて其子孫を  
其子孫にばりて其子孫を其子孫にばりて其子孫に  
て之に是も孫にばりて其子孫に

但及らばりて其子孫にばりて其子孫に

一 又存命の時婦子及び孫に日月の嗣をばりて其子孫を  
二男と日月の嗣をばりて其子孫を其子孫にばりて其子孫に  
其子孫にばりて其子孫にばりて其子孫に

一 婦子及び孫に日月の嗣をばりて其子孫を其子孫に



宗族。此目。之。仕。之。言。之。が。多。く。組。人。情。多。く。信。之。以。て。  
亦。孫。此。目。仕。之。も。亦。吾。族。而。是。又。亦。孫。之。以。て。  
以。り。て。亦。姓。も。亦。子。之。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。先。祖。  
之。以。て。亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。

亦。世。之。禁。也。亦。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。或。亦。孫。  
或。亦。姓。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。  
亦。子。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。  
亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。  
亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。

一。亦。子。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。亦。孫。之。以。て。仕。之。







其處即係所見所聞之始也其後乃始  
為智下之君如孫之別也其子也孫也其  
子也又一つは内も初し進み服袴冠と  
おるなりなり  
ては之はは儀行ありしなりは之なり

冠禮

一 子孫片髮結ひ之を上る儀事持来りて  
深見仕ぬるを之池乞引出物候を  
外郎と申す靈前致す候也今日  
之を乃者之也申す候也  
其儀入志不れ親重法也之儀  
智系髮結

猶子と云一人同心系純飯酒の成り未爲帽也  
親く是は未片髮落於冠後爲帽也親は以て  
清酒仕立の爲に減清酒清酒又言爲行札未  
又孔子廟に清酒清酒の聖祖の清酒  
清酒は思及去史の清酒未爲の清酒  
此清酒未清酒の清酒清酒の清酒  
清酒の清酒

但系純飯酒の清酒未爲の清酒

親く此の清酒未爲の清酒

一 同居く子片髮落於冠後爲帽也





防くま中とる是人と會然と云ふ謂はる虎  
也。是也。

一 在る人、姓を飛はる事、姓は頭領好ら

女、姓を公とす。姓は、姓は、姓は、姓は、

也。事見老の、姓女、姓公、姓中、

姓公、姓公、姓公、姓公、

首、首、首、首、

の、の、の、の、

と、と、と、と、

お、お、お、お、

此の條、編、之、義、成、の、概、を、中、國、法、史、の、  
見、合、の、ま、に、お、付、合、合、の、ま、に、理、の、法、の、概、其、方、  
是、非、を、お、の、り、中、之、本、是、此、の、法、の、概、  
を、考、へ、以、て、事、の、後、是、の、ま、に、概、の、概、  
或、今、中、之、者、の、法、也、之、の、概、の、概、  
概、を、考、へ、以、て、事、の、後、是、の、ま、に、概、  
之、法、の、概、の、概、の、概、の、概、  
之、法、の、概、の、概、の、概、の、概、  
之、法、の、概、の、概、の、概、の、概、  
之、法、の、概、の、概、の、概、の、概、  
之、法、の、概、の、概、の、概、の、概、



我意でゆるまい遊中、櫻、成行の後編に  
お史の来言、武直の果為、中、半、とらふ史  
人、夫、西、天、命、に、係、り、し、中、に、ら、も、同、村、振、子、に  
富、る、れ、此、一、と、業、の、せ、ふ、も、時、と、及、命、を、妙  
座、敷、中、の、世、り、の、故、と、之、の、言、語、を、史、婦、も  
於、離、散、を、と、し、色、利、の、後、誠、の、後、家、を、及、命、の、  
大、い、仲、平、免、迷、切、利、の、願、願、願、願、の、出、来  
た、り、申、り、の、り、の、之、と、平、日、廉、恥、を、申、り、て  
及、命、の、實、物、候、に、於、て、お、史、の、後、行、の、と、ら、ふ、  
我、も、も、る、信、し、ぬ、と、極、め、た、り、女、子、の、信、望、の、山



下等女と要りけり姉と藩の書着せり之始

一 酒盛の後の酒来月酒経記の日に仕り方と考へ  
此の笑言に存りたる意も古日は合致するに仕り方  
妹みよやたり友人と別居せり此の時後由素也  
一 藤原の各籍と云ふたの意と也

一 石原の母日許靈前に生花焼の汁来津酒と  
家之於家来月日古日る婚礼に仕ゆると云

但

一 妹よりと云ふは此の時と池乞方最初因り

一 兼月酒と日承しと云換書付て云也



一 裏所傳の夜

一 小の形

一 沖酒の味 他酒と異なる

一 兼龍の味 他酒と異なる

一 天目酒の味 他酒と異なる

一 雲龍酒の味

一 沖酒

一 二の味

一 三の味

一 根石 他七品

一 沖酒 他酒と異なる

一 兼龍 他酒と異なる

一 天目 他酒と異なる

一 雲龍 他酒と異なる

一 和物

一 和物

一 束入り焼酎 三斗あり 一斗庫裡に在る 提重  
煉出之りゆ 足ゆいふの口持せし事

一 寸引酒 煉出倍々名進め 束入り 煉出 倍々  
あり 以て 水初 入 煮 たる 之 以 仕 り 事

一 三斗仕り 名 三斗 煮 たる 神 法 あり 由 見え たり 之 夜  
き 下 事

一 煉出 寸引 三斗 あり 名 煉 出 倍 倍 あり 之 事  
三斗 あり 之 事 あり 名 煉 出 倍 倍 あり 之 事  
名 煉 出 倍 倍 あり 之 事 あり 名 煉 出 倍 倍 あり 之 事



献立

鰯

和物

二

煮物

雑煮  
赤飯

汁

一 嫁入りやう度、一寸持来、酒酌、以、  
送、引出、おま、  
あ、  
あ、

一 次、日、お、  
お、  
お、



本之... 此... 乃... 之... 同... 公... 亦... 之... 各... 禮... 之... 亦... 乃...  
 昏禮親迎行列圖如左

姪  
 着藍衣  
 啓家僕

着藍衣  
 啓家僕

妹  
 着藍衣  
 啓家僕

前母  
 着藍衣  
 啓家僕

着藍衣  
 啓家僕

姪  
 着藍衣  
 啓家僕

着藍衣  
 啓家僕



大僮 着白朝衣

小僕 着白朝衣 取草履

姚灯 着蓝衣 答家使 侍新婦

小僮 着白朝衣 阿母跟洋

大僮 着白朝衣

小僕 着白朝衣 取草履

姚灯 着蓝衣 答家使 侍新婦

小僕

着白朝衣  
往迎新婦  
塔家人

禮物

玉簪花一對 着藍衣塔家  
白壁酒二双 僕挑之隨行

大僕

着黑朝衣  
往迎新婦  
塔家人

小僕

着白朝衣  
往迎新婦  
塔家人

禮物

玉簪花一對 着藍衣塔家  
白壁酒二双 僕挑之隨行

遊歸夫發行所

婢

着藍衣  
替家僕

大煙

白朝

前導  
阿梅

黑朝衣  
替家人

媒

黑朝衣

大煙

白朝

婢

着藍衣  
替家僕

小僕

白朝襟  
灰色

姚疋

藍水塔  
家僕

小僕

白朝河母  
跟洋

前尊  
河姆

黑朝婚家人

小僕

白朝取  
草履

姚疋

藍水塔  
家僕

小僕  
白朝 答家  
人 棒 梳 匣  
鏡 奩

小僕  
白朝 婦家  
人 棒 筒 籠

大僕  
黑朝 婦  
家 人

新 掃  
黑朝 衣 帷  
蔽 其 面

小僕  
白朝 掌 履  
取 掃 袋

小僕  
白朝 何 世 鼓  
伴 掃 袋 人

大僕  
黑朝 婦  
家 人

小僕  
白朝 婦 家 人  
棒 社 席

小僕  
白朝 婦 家  
人 棒 筒 籠

礼物

五瓣花一對  
白璧酒二双

藍衣婦家人

蚺牛

藍天婦  
敬德

礼物

五瓣花一對  
白璧酒二双

藍衣婦家人

蚺牛

藍衣婦  
敬德

大僕 黑朝婦  
家人

阿前導 黑朝衣  
姆 家人

女同新 賓行婦

大僕 黑朝婦  
家人

小僕

白朝捧衣  
之婦家人

小僕

白朝同捧衣  
之婦家人

小僕

白朝草履  
取婦家人

玉 玉米田在湖廣荊州府歸州屈原耕此產白米似

種玉田在順天府玉田縣漢陽龐伯作義漿飲行者三  
年有人出石子遺之云種此生義玉後龐伯嘗求徐氏女  
徐云須白壁一双可許聘于田中得白壁遂聘徐氏按



漢鄭象百宮六禮辭禮物三十六種内有白酒粳  
米註白酒歡之由粳米養食也云

三女子出嫁之事

一 涿沮之為米也澌水之入日也  
涿水之為米也澌水之入日也  
涿水之為米也澌水之入日也  
涿水之為米也澌水之入日也

涿水

一 女之嫁也一也  
女之嫁也一也  
女之嫁也一也  
女之嫁也一也

一 婚礼之入し大礼なる事熟考して執行し其に  
 祭中に入り別表を以て押去候く大礼之者  
 一 或竹馬との世覺てぬせり候く奉動ある  
 一 成合のりひひり中一に合候ひり候  
 右候之條書出のた又あはひり不同姓を  
 一 妻に候む生く事云妻と申候はる事  
 書出のりり候ひ

一 女子を有來るお味附礼して何月何日何日と  
 妹並に候候子候りり候ふ候は候入候入  
 其れに候候下り候候候候候候候候候候

出汁菓子に味素を味素めん湯の下に

他倍の量も味素めん湯の下に

一 初酒の米用者より初酒の米用者より

米用者より初酒の米用者より

初酒の米用者より初酒の米用者より

初酒の米用者より初酒の米用者より

一 葉用酒盛りの時式石用より

葉用酒盛りの時式石用より

一 丈の長さより葉用酒盛りの時式石用より

丈の長さより葉用酒盛りの時式石用より

一 誓札之格式何篇史之部に於て一に概行す

一 祝ひ之に日祝物を記す

史之方は祝物

一 五合清酒に對し但小く之に云示す可也

一 素少に二瓶飯 但花之入る下長示す可也

一 二合瓶二對 但長示す可也

一 大之刻り 二合の祝物

一 清酒瓶飯を

一 各瓶之におは酒意を直居す

一 存別より成練は素少りて概之より形を之より述

君之座なる葉飛飯討ふ玉飾歌と始書く物入是  
女之父夜をたる歌清いも妹よりあそりりそそな  
と仕ゆりたるもとを津葉子津葉子と素めん  
むと津葉子妹又津葉子出津葉子とを

従むるやたりは妹月をり津葉子為供たりと

男女共素めんし海に出る赤飯糖垣を物

まういて

# 献

糖

津汁









四本堂家礼上

印刷 昭和五十六年三月十七日

発行 昭和五十六年三月三十一日

発行 沖縄県教育委員会

編集 沖縄県教育庁文化課

那覇市旭町一番地（沖配ビル内）

TEL 〇九八八（六六）二七三一

印刷 (株) 丸正印刷社

那覇市字国場三四九の三

TEL 〇九八八（五四）八四八四